

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3147628号
(U3147628)

(45) 発行日 平成21年1月15日 (2009. 1. 15)

(24) 登録日 平成20年12月17日 (2008. 12. 17)

(51) Int. Cl. F 1
A 4 7 C 7/00 (2006. 01) A 4 7 C 7/00 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6672 (U2008-6672)
(22) 出願日 平成20年8月13日 (2008. 8. 13)(73) 実用新案権者 508284838
永田 章
長野県松本市大字里山辺 1 4 4 3
(72) 考案者 永田 章
長野県松本市大字里山辺 1 4 4 3

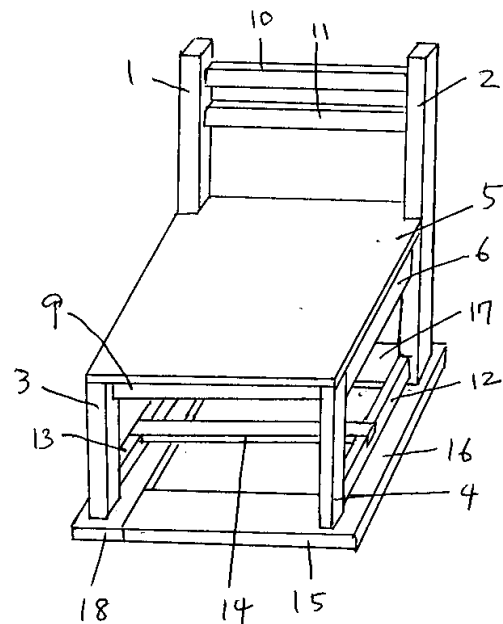
(54) 【考案の名称】 和室用椅子

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 椅子の脚と床との接する部分の圧力を減らす事により、和室で使用した場合に畳が傷付くのを防ぐ和室用の椅子を提供する。

【解決手段】 椅子本体に、15～18の四枚の面取りを施した板を組んで脚と床との接する部分に取り付ける事により、和室で使用した際畳が傷付くのを防ぐ。本和室用椅子は従来の椅子使用時よりも畳に付く跡が少ないので畳が長持ちする。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

背もたれ付四脚椅子の脚と床との接する部分に四枚の板を組み取り付けける事により畳を傷付けない様にする和室用の椅子

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は畳を傷付けない様にする椅子に関するものである。

【背景技術】

【0002】

日本人の生活様式が変化して畳に正座をする事が減り、住宅自体も変化し、フローリングの部屋も一般的になってきて同時に椅子やソファの生活も一般的になっています。又高齢者で椅子の生活の方が体が楽だという話をされているのを聞いた事もあり変化していく日本人の体型なども含め椅子は日本人の生活に欠かせなくなっているのですが、椅子を使う生活にするために、家を建て変えたり、フローリングにリフォームできる方ばかりではありません。

【0003】

日本人の伝統である畳ですが日本人の生活様式の変化により需要も減りつつある様です。日本の風土に合い、和室の気持ち良さや、イグサが二酸化炭素や湿気を吸収する事など、もっと見直されて良い物であります。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

和室で、従来の椅子を使って生活をすれば畳に跡が付き、見映えが悪くなったり、畳の寿命を縮める事になる。

【0005】

本考案は和室で従来の椅子を使用した際畳につく椅子の跡、畳の痛みを減らす事を目的とするものである。

【0006】

前記目的を達成するために脚の下、床と接する部分に四枚の板を組み取り付けける。四枚の板は真中が四角く空いた四角形に組まれその四つの角の所に椅子の脚が乗る形になり、固定される。従って床に接する角は外角四つ内角四つの合計八つとなり、四角形の材を脚に使った四脚椅子の場合の外角十六の半分となります。真中が四角く空いた四角形のパーツの面取り、やすり掛けにより、畳に付く跡を更に減らす事も考えられます。

【考案の効果】

【0007】

本考案の和室用椅子は従来の椅子使用时よりも畳に付く跡が少ないので畳が長持ちします。

【考案の実施するための最良の形態】

【0008】

和室での使用。

【実施例】

【0009】

同上。

【産業上の利用可能性】

【0010】

この十年で、半分近くまで減少したといわれる和室。畳には、二酸化炭素、湿気を吸収する効果も有り、環境問題にも役立ちそうな物で有り、日本の伝統でも有ります。

【0011】

椅子の生活を和室でした場合に、畳に付いてしまう椅子の跡が、少なくなれば、椅子を

10

20

30

40

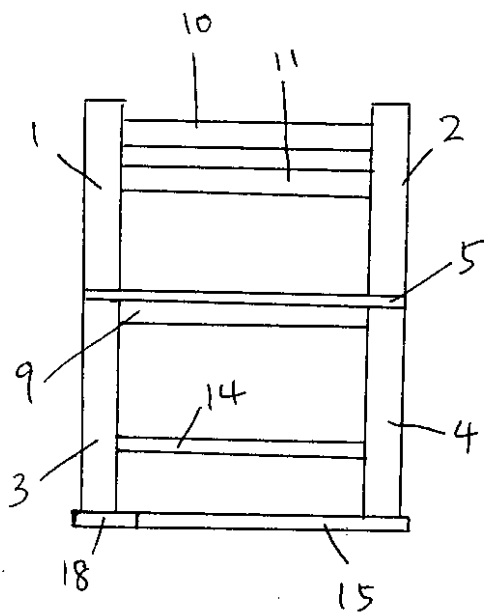
50

使った生活をしたい人が、全てフローリングの部屋に住まなくても良くなります。

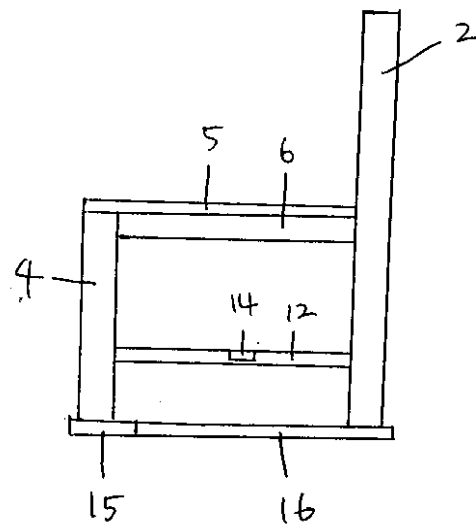
【0012】

上記二項目で述べた様に、本考案は、椅子についての考案であります。和室、畳にも関係の深い物なので木工のみならず日本の伝統である畳の復興にも役立つと考えられます。

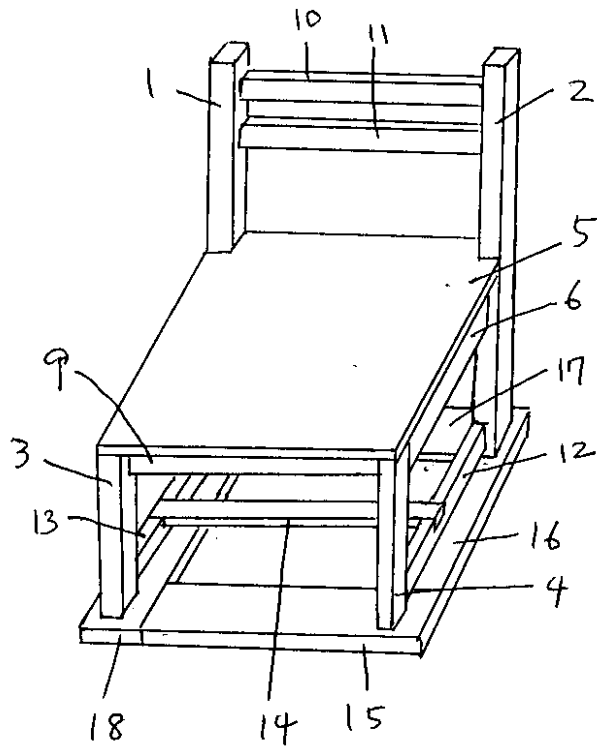
【図1】



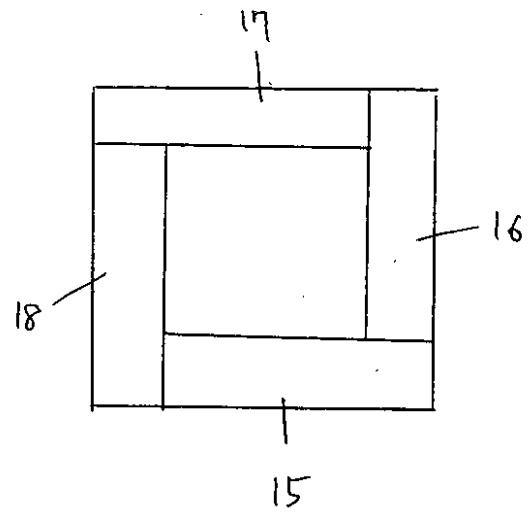
【図2】



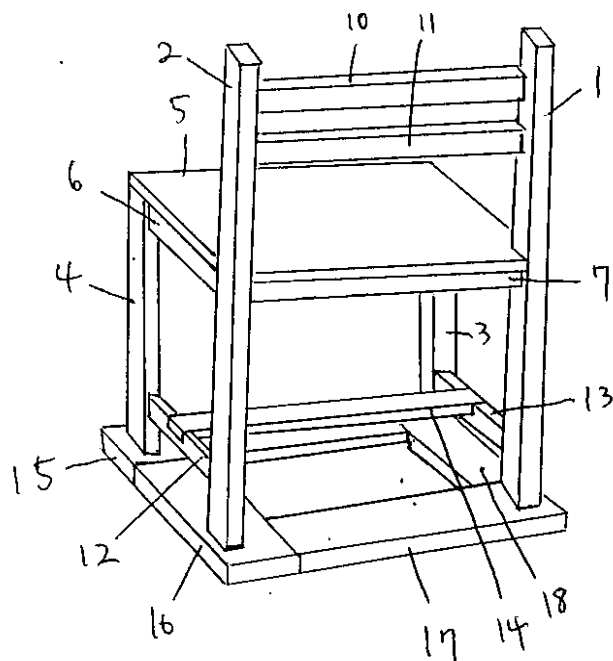
【図 3】



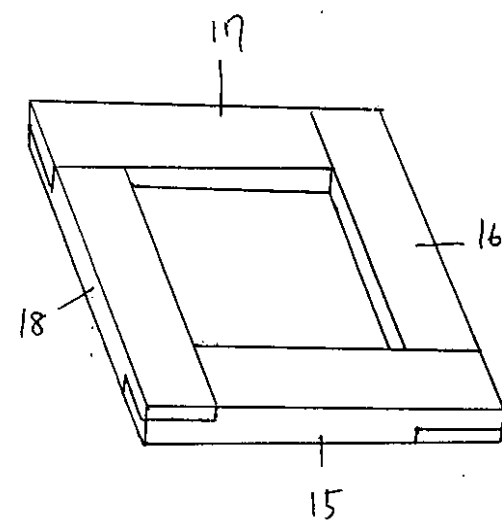
【図 4】



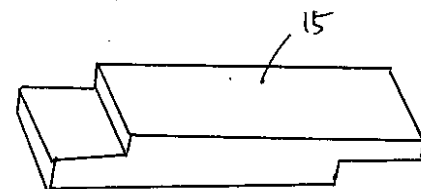
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【手続補正書】

【提出日】平成20年10月30日(2008.10.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は畳を傷付けない様にする椅子に関するものである。

【背景技術】

【0002】

日本人の生活様式が変化して畳に正座をする事が減り、住宅自体も変化し、フローリングの部屋も一般的になってきて同時に椅子やソファの生活も一般的になっています。又高齢者で椅子の生活の方が体が楽だという話をされているのを聞いた事もあり、変化していく日本人の体型なども含め椅子は日本人の生活に欠かせなくなって来ているのですが、椅子を使う生活にするために、家を建て変えたり、フローリングにリフォームできる方ばかりではありません。

【0003】

日本の伝統である畳ですが、日本人の生活様式の変化により需要も減りつつある様です。日本の風土に合い、和室の気持ち良さや、イグサが二酸化炭素や湿気を吸収する事など、もっと見直されて良い物であります。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

和室で従来の椅子を使って生活をすれば畳に跡が付き、見映えが悪くなったり、畳の寿命を縮める事になる。

【0005】

本考案は和室で従来の椅子を使用した際畳につく椅子の跡、畳の痛みを減らす事を目的とするものである。

【0006】

前記目的を達成するために脚の下、床と接する部分に四枚の板を組み取り付け。四枚の板は真中が四角く空いた四角形に組まれその四つの角の所に椅子の脚が乗る形になり、固定される。従って床に接する角は外角四つ内角四つの合計八つとなり、四角形の材を脚に使った四脚椅子の場合の外角十六の半分となります。真中が四角く空いた四角形のパーツの面取り、やすり掛けにより、畳に付く跡を更に減らす事も考えられます。

【考案の効果】

【0007】

本考案の和室用椅子は従来の椅子使用時よりも畳に付く跡が少ないので畳が長持ちします。

【考案の実施するための最良の形態】

【0008】

和室での使用。

【実施例】

【0009】

同上。

【産業上の利用可能性】

【0010】

この十年で、半分近くまで減少したといわれる和室。畳には、二酸化炭素、湿気を吸収

する効果も有り、環境問題にも役立ちそうな物で有り、日本の伝統でも有ります。

【0011】

椅子の生活を和室でした場合に、畳に付いてしまう椅子の跡が、少なくなれば、椅子を使った生活をしたい人が、全てフローリングの部屋に住まなくても良くなります。

【0012】

上記二項目で述べた様に、本考案は、椅子についての考案であります。和室、畳にも関係の深い物なので木工のみならず日本の伝統である畳の復興にも役立つと考えられます。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】は、和室用椅子の正面からの平面図

【図2】は、和室用椅子の側面からの平面図

【図3】は、和室用椅子の前方からの斜視図

【図4】は、和室用椅子の脚の下に取り付けられる四枚の板を組み合わせたパーツの平面図

【図5】は、和室用椅子の後方からの斜視図

【図6】は、和室用椅子の脚の下に取り付けられる四枚の板を組み合わせたパーツの斜視図

【図7】は、和室用椅子の脚の下に取り付けられる板の斜視図

【符号の説明】

【0014】

- | | | |
|----|-----|--------------------|
| 1 | ・・・ | 後脚 |
| 2 | ・・・ | 後脚 |
| 3 | ・・・ | 前脚 |
| 4 | ・・・ | 前脚 |
| 5 | ・・・ | 腰掛け部 |
| 6 | ・・・ | 幕板 |
| 7 | ・・・ | 幕板 |
| 9 | ・・・ | 幕板 |
| 10 | ・・・ | 背もたれ |
| 11 | ・・・ | 背もたれ |
| 12 | ・・・ | 横浅 |
| 13 | ・・・ | 横浅 |
| 14 | ・・・ | 貫 |
| 15 | ・・・ | 和室用椅子の脚の下に取り付けられる板 |
| 16 | ・・・ | 和室用椅子の脚の下に取り付けられる板 |
| 17 | ・・・ | 和室用椅子の脚の下に取り付けられる板 |
| 18 | ・・・ | 和室用椅子の脚の下に取り付けられる板 |